

インド学およびインド神話に関するワークショップ

——インド学を未来へつなぐために——

Michael WITZEL 教授

(Professor Emeritus, Harvard University/Visiting Professor, Osaka University)

講演会のご案内

この度、大阪大学人文学研究科・文学部インド哲学研究室では、ミヒャエル・ヴィッツェル (Michael WITZEL) ハーヴァード大学名誉教授 (現大阪大学招へい教授) を迎えて、標記のワークショップを開催します。ヴィッツェル教授による講演に加えて、同教授および数名のインド学者による連続講義 (授業) を予定しています。連続講義はテキスト講読、問題提起・議論等を行うやや専門的なものですが、初日午前のヴィッツェル教授の講演会は、インド最古のサンスクリット語文献『リグヴェーダ』の宗教・神話の歴史的背景や発展を考察するもので、インド・ヨーロッパ語族、古代ユーラシア・南アジア前史、インダス文明、そして言語学、考古学、遺伝子学、神話学など幅広いテーマに話題が及びます。ご関心ある方はぜひご参加ください。もちろん他の講義へのご参加も歓迎します。参加ご希望の方は、以下問い合わせ先 (堂山アドレス) までご連絡下さい。プログラム完全版と参加フォームをお送りします。

大阪大学インド哲学研究室

開催日 : 2023 年 3 月 10 日 (金)、11 日 (土)

場所 (10 日午前の講演) : 大阪大学基礎工学国際棟 シグマホール (豊中キャンパス)

場所 (10 日午後以降の講義) : 大阪大学基礎工学国際棟 セミナー室 (上記ホールの向かい)

開催形式 : ハイブリッド開催

<プログラム>

3 月 10 日 (金)

10:00 ~ 10:30 開会 ; 井上信生氏の業績および Web 公開のご案内

堂山英次郎・名和隆乾 (大阪大学)

10:30 ~ 12:00 講演 : The R̥gveda and its mythology: diverse historical sources
and internal developments

講師 : Michael WITZEL (ハーヴァード大学名誉教授 / 大阪大学招へい教授)

12:00 ~ 13:10 昼休憩

13:10 ~ 15:10 講義 1 : Indra Among the Kalasha: The Chaumos Winter Solstice festival

講師 : Michael WITZEL (ハーヴァード大学名誉教授 / 大阪大学招へい教授)

15:30 ~ 17:30 講義 2 (オンライン) : リグヴェーダ IV 42 : ヴァルウナとインドラ

講師 : 後藤 敏文 (東北大学名誉教授)

18:00 ～ 20:00 懇親会（於千里中央）

3月11日（土）

10:00 ～ 12:00 講義3：誰がヴィシュヴァルーパーを殺したのか？

ーインドラとトゥリタ・アープティヤー

講師：堂山 英次郎（大阪大学教授）

12:00 ～ 13:10 昼休憩

13:10 ～ 16:20 講義4：インドラ神話の変容と新月満月祭を中心とする穀物祭の形成
（適宜休憩含む）

：ブラーフマナ

講師：阪本（後藤）純子（宮城学院女子大学客員研究員）

16:30 ～ 17:30 各講師のブースに分かれて、または全体で議論・質疑応答、懇談

※ 講演・講義は全て、質疑応答・議論の時間も含まれます。

※ ヴィッツェル教授の講演・講義は英語で行われます。

共催 ・大阪大学人文学研究科・文学部 インド哲学研究室

・科学研究費補助金基盤研究（C）「インドラとは何者か？ 古代インドの英雄神に関する総合的研究」（課題番号：20K00051；研究代表者：堂山英次郎）

問い合わせ先：大阪大学人文学研究科・文学部 堂山英次郎

E-Mail: edoyama.hmt#osaka-u.ac.jp（#を@に変えてお使いください。）

【WITZEL 教授講演の要旨】

3月10日（金）午前、講演

The R̥gveda and its mythology: diverse historical sources and internal developments

Michael WITZEL（ハーヴァード大学名誉教授／大阪大学招へい教授）

This talk explores the ultimate Proto-Indo-European, subsequent western Central Asian, Bactrian, and Hindukush sources of R̥gvedic religion, ritual and mythology. Employing linguistic, archaeological and genetic data, it is shown how the Indo-European basis is overlaid by influences from the Central Asian Highlands, the Bactria-Margiana Archaeological Complex, and by those from the Hindukush populations. The putative impact of the Indus Civilization and further internal Vedic developments too are discussed.

【参考】初日午後の同教授講義の要旨も掲載しておきます。

3月10日（金）午後、講義1

Indra among the Kalasha: The Chaumos Winter Solstice festival

Michael WITZEL（ハーヴァード大学名誉教授／大阪大学招へい教授）

The Kalasha people of Chitral (NW Pakistan) have preserved their old Indo-Aryan religion and rites. Their winter solstice festival (Chaumos) focuses on the role of Indra as an annual visitor, his heroic deeds and gifts. Many of his characteristics and exploits recall the Vedic Indra. This talk presents a comparison of the Kalasha and Vedic data.